

東北地方太平洋沖地震への対応等

船舶による緊急物資輸送等への対応

海 事 局
平成23年4月21日
10時00分現在

被災地への支援のため、地元の要請に応じた緊急物資の輸送や船舶の派遣を展開中。

- ・フェリーによる自衛隊員等や車両など災害復旧要員の緊急輸送
- ・タンカーによる燃料油等の緊急輸送
- ・(独)航海訓練所練習船の派遣による被災者の支援、など。



3月12日より、フェリーによる自衛隊、道警、道消防等の要員、車両の輸送(計100便、車両約5,100台、自衛隊員等約18,500名)



航海訓練所練習船による被災者支援
・銀河丸(3/20~22日、宮古港にて、医療品、軽油、炊き出し、風呂の提供)
・海王丸(3/21~27日、小名浜港にて、炊き出し、風呂、宿泊施設の提供)

フェリー航路の再開
・3月22日より、八戸~苫小牧航路を青森~苫小牧航路へ変更して再開
川崎近海汽船株

RORO船航路の再開
・4月6日より隔日運航で再開、4月12日より毎日運航
川崎近海汽船株・近海郵船物流株(常陸那珂~苫小牧)
・4月8日より隔日運航で再開
フジトランス・コーポレーション(名古屋~仙台~苫小牧)



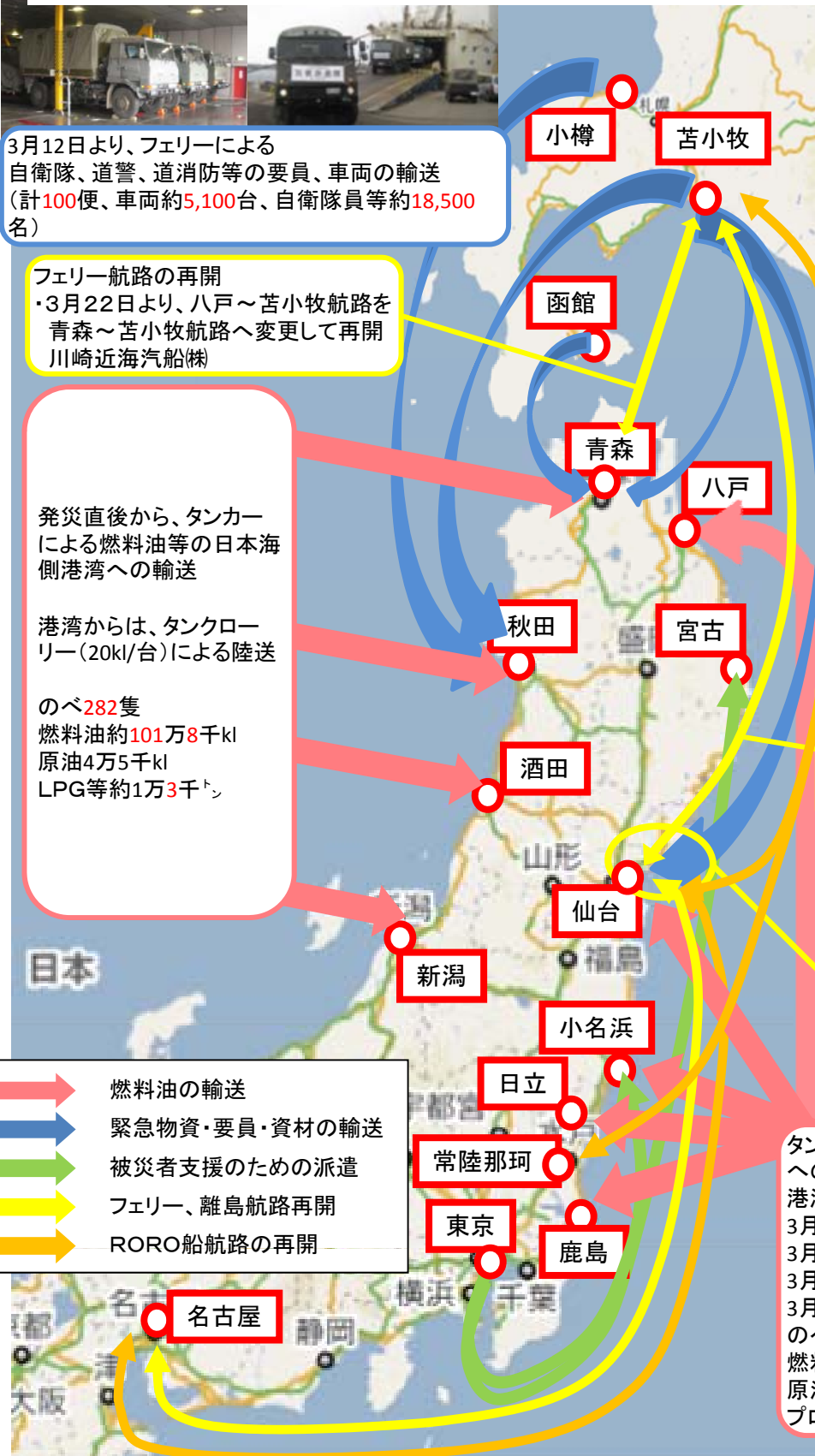
フェリー航路の再開(太平洋フェリー株)
・3月28日より限定再開(旅客取扱なし)(苫小牧~仙台)
・4月11日より限定再開(旅客取扱なし)(名古屋~仙台~苫小牧)
・4月28日より苫小牧~仙台間で旅客取扱開始

離島航路の再開
・3月24日より限定再開
網地島ライン株(石巻~仁斗田~網地)
・3月26日より限定再開
塩釜市営(4月13日より塩釜~桂島~野々島~石浜~寒風沢)
・3月30日より限定再開
大島汽船株(浦ノ浜~気仙沼)

発災直後から、タンカーによる燃料油等の日本海側港湾への輸送
港湾からは、タンクローリー(20kl/台)による陸送
のべ282隻
燃料油約101万8千kl
原油4万5千kl
LPG等約1万3千ト

タンカーによる燃料油等の太平洋側港湾への輸送
港湾の啓開作業に合わせて、
3月21日仙台塩釜港、
3月23日八戸港、
3月25日鹿島港、
3月29日日立港、小名浜港へ順次入港。
のべ221隻
燃料油約63万kl
原油2万4千kl
プロパン等約4千8百ト

- 燃料油の輸送
- 緊急物資・要員・資材の輸送
- 被災者支援のための派遣
- フェリー、離島航路再開
- RORO船航路の再開



※日付は入港日

1. 緊急物資輸送等への対応について

①【緊急物資等の輸送】

- ・自衛隊部隊及び車両の輸送について、フェリー会社5社に対し要請があり、3月12日から北海道・東北日本海側間の海上輸送を実施中（北海道警、道消防等の要員、車両も輸送）。計100便で自衛隊員等約18,500名、車両約5,100台を輸送。要請に応じ随時輸送予定。
- ・燃料油等の緊急輸送について、3月12日から日本海側ルートで、延282隻、燃料油約101万8千kl、原油4万5kl、LPG等1万3千トンを送。太平洋側ルートは、港湾の啓開作業に合わせて、3月21日仙台塩釜港、23日八戸港、25日鹿島港、29日日立港、小名浜港に順次入港。3月27日、塩釜航路喫水制限解除に伴い5千klタンカーも入港。延221隻で、燃料油約63万kl、原油2万4千kl、プロパン等4千8百トンを輸送。（業界団体ヒア4月20日出発分まで）
- ・家畜用飼料の緊急輸送について、3月15日から約19万トンを内航船・外航船により輸送。
- ・救援物資輸送について、
 - ・(株)フジトランス・コーポレーションの自動車専用船が、荷役機器等を積載し3月23日八戸港へ、29日仙台塩釜港へ入港。
 - ・栗林商船(株)RORO船が、荷役機器等を積載し3月23日仙台塩釜港へ入港。
 - ・太平洋フェリー(株)フェリーが、食料品、医薬品等を積載し3月27日仙台塩釜港入港。
 - ・日本郵船(株)子会社が所有するモジュール船が、救援物資を積載し3月27日八戸港入港。
 - ・日本通運(株)のRORO兼コンテナ船が、荷役機器等を積載し3月29日仙台塩釜港入港。

②【輸送手段の提供等】

- ・内航船社9社より日本内航海運組合総連合会を通じて、輸送要請があった場合に対応できる船舶を準備済み（RORO船10隻、コンテナ船4～5隻、砂利運搬船3隻）。
- ・栗林商船(株)、(株)フジトランス・コーポレーションより、一定の要件のもとで被災地の港湾への無償輸送の申し出。
- ・日本船主協会より、国際コンテナ航路を活用し海外からの救援物資の無償輸送の申し出。
- ・日本長距離フェリー協会より、一定の要件のもと、被災者の集団移住に際し長距離フェリーを利用する場合の旅客の無償輸送の申し出（「がんばろう日本！フェリーで移住支援プロジェクト」）。
- ・(株)商船三井が外航クルーズ客船「ふじ丸」を活用し、岩手県大船渡港（4月11日、12日、15日）、釜石港（13日、14日）、宮古港（16日、17日）において被災者への支援（入浴及び食事提供など）。参加者累計4,451名。

2. 東京港、横浜港等の寄港回避の動き等への対応について

- ・3月18日風評被害対応として、外国船社に対し、公表されている東京港、横浜港等の放射線測定値について周知するとともに、そのデータに基づいた東京港、横浜港等への輸送サービスの継続を要請。

- ・ I M O（国際海事機関）より以下のプレスリリース・回章が加盟国へ発出されている。
 - ・ 3月20日に「日本港湾への寄港の制限がない」旨のプレスリリース。
 - ・ 3月23日に「放射線の計測結果、港湾周辺では健康上のリスクはない」旨の回章
 - ・ 4月1日に「放射性物質の濃度は極めて低く、健康や輸送の安全に影響を与えるものではないこと」や東京湾における放射線量に関するウェブサイトアドレスを付した回章
 - ・ 4月15日に「世界の空港及び港湾において、健康及び安全を目的とした放射線に関するスクリーニングを行うことは現時点では不要と考えられる」旨のプレスリリース及び回章
- ・ これらについて、日本船主協会、全日本海員組合、国際船員労務協会等から、関係企業や船員へ周知。
- ・ (財)日本海事協会は、4月1日より、船主から我が国造船所で建造する新造船への放射線量鑑定の求めがあれば、確認書を発行することを決定。
- ・ 東日本大震災後に日本を出港した邦船社関係船舶が、4月10日以降、欧州港湾に入港を開始。ロッテルダム港（オランダ）、ハンブルク港（ドイツ）、ゼーブリュッヘ港（ベルギー）にて、放射線量検査が実施されたが、いずれも問題なく入港が認められた。

3. 航路の運航再開、旅客船及び造船所の被害状況について（別紙 1、2、3）

①【航路の再開状況】

- ・ 離島航路は被災を受けた4航路のうち、3月24日に石巻と離島を結ぶ航路が、26日に塩釜と周辺諸島を結ぶ航路が一部の島との間で、30日に気仙沼と大島を結ぶ航路が、それぞれ限定的な運航を再開。各航路再開後、便数や寄港地を順次拡大。
- ・ 中長距離フェリーについて、太平洋フェリー(株)が、3月28日以降、隔日で苫小牧～仙台塩釜港間で限定的な運航を再開。また、4月10日から名古屋～仙台～苫小牧航路に変更し、28日より仙台～苫小牧間で旅客取扱開始。
- ・ R O R O 船航路について、川崎近海汽船(株)・近海郵船物流(株)が共同運航する船が、4月5日から常陸那珂～苫小牧航路を再開。6日常陸那珂港へ入港。11日から毎日運航。
- ・ 自動車専用船について、(株)フジトランス・コーポレーションが、4月8日以降、隔日で名古屋港～仙台塩釜港～苫小牧港間で運航を再開。

②【旅客船、造船所の被害状況】

- ・ 旅客船事業について、多数の船舶の流出被害の他、社員（陸員・船員）の行方不明等に関する報告を受けている。
- ・ 造船事業は、ほとんどの施設が壊滅的な被害を受けている。一部の造船事業者は復旧に向け作業開始。

4. (独) 航海訓練所練習船の派遣について

- ・ 銀河丸は3月20日～22日、救援物資輸送、炊き出し等を実施。救援対象者累計216名。
- ・ 海王丸は3月21日～27日、救援物資輸送、一般被災者、原子力発電所関係者に対する炊き出し等を実施。救援対象者累計、一般被災者390名、原発関係者180名。

5. 申請手続き等の特例措置、規制の弾力運用等について

- ・ 海技免状、船舶検査等の申請手続き、検査の実施等について被災者向け特例措置を実施中。
- ・ 緊急物資輸送を円滑に行えるよう、各種規制につき、緊急避難的対応を実施。

- ・ 3月30日気仙沼海事事務所、4月6日石巻海事事務所において船員の雇用保険関係手続きや船舶検査等の業務を再開。
- ・ 4月1日海技教育機構の被災学生に対して授業料等の減免、奨学金の貸与・返還の猶予を決定。
- ・ 国立宮古海上技術短期大学校では、練習船「月山」をはじめ教育施設が被災したことから、施設が復旧するまでの間、清水校に仮校舎を置いて授業・実習を行うこととし、4月7日、清水校において被災地出身者11名を含む43名の入学式が実施された。

6. 被災船舶の円滑な処理の支援について

- ・ 被災船舶の所有者情報を速やかに市町村等に提供できるよう、問い合わせ窓口等を記した水産庁と共同の事務連絡を3月28日付けで発出。
- ・ 移動困難な船舶について、船舶所有者、保険会社等の個別の協議を国が支援する体制を構築。
- ・ 3月28日より4月1日まで、本省より職員2名を現地に派遣。
- ・ 4月21日付けで、被災船舶の処理のガイドラインを水産庁・環境省と共同で関係自治体宛てに発出。

7. 被災者を対象としたきめ細やかな就職支援活動について

- ・ 船舶所有者向けに、雇用保険の特例措置や雇用調整助成金制度等の説明会を、宮城労働局の協力を得て、4月7日に気仙沼市において実施した。
- ・ 船員再就職希望被災者に対して、全国の船員求人情報が検索できるシステムを活用し、きめ細やかな就職相談をハローワーク等とも連携し実施。
- ・ 4月20日より、壊滅的被害を受けている造船関連業労働者の広域マッチングについて厚生労働省と国土交通省が連携して受入れ先の開拓を開始。

8. 引き続き余震における被害について

- ・ 4月11日17時16分頃、福島県浜通りにおいて、マグニチュード7.1の地震が発生。12日14時07分頃にも、同所においてマグニチュード6.3の地震が発生。いずれも、福島県において震度6弱の揺れが観測されたが、これらの地震による新たな人的・物的被害は発生していない。

被災地域に係る離島航路の現況（4月21日現在）

離 島（人口）	運航事業者	航路・便数	所有船舶	被害状況	現 況	備 考
○大島(3,527)	大島汽船(株)	大島(浦ノ浜) ～気仙沼(商港) 19便/日 気仙沼発9 大 島発10	フェリー大島 【198t 定員 250名】 フェリー亀山 【306t 定員 250名】 等全7隻	・所有船舶2隻沈没、5隻乗揚げ。 ・人的被害無し	3月30日より、傭船船舶「はやぶさ」により、大島(浦ノ浜港)～気仙沼間を1日8往復で運航再開。4月6日より1日9往復で運航。	フェリー1隻(397t、定員300名、車両20台)を傭船。4月中を目途に運航予定
○田代島(112) ○網地島(あじしま)(493)	網地島ライン(株)	石巻 ～田代島 ～網地島 ～鮎川 14便/日	マーメイド 【122t 定員 212名】 ブルーライナー 【101t 定員 220名】 みゆう 【19t 定員 73名】	・船舶被害無し ・待合所被災	3月24日より、「マーメイド」により、石巻(工業港)～田代島(仁斗田港)～網地島(網地港)間を1日1往復で運航再開。4月16日より、1日2往復で運航。	
○江島(えのしま)(112) ○出島(いずしま)(521)	シーパル女川汽船(株)	女川 ～江島・出島・寺間 7便/日	しまなぎ 【62t 定員 100名】	・船舶被害無し ・社屋倒壊 ・陸員・船員に行方不明者あり	当面の運航再開は見込まれない。	島民は本土側に避難(宮城県HPによれば、現状、「女川町内の孤立地域は無し」)
(浦戸諸島) ○桂島(かつらしま)(316) ○野々島(ののしま)(111) ○寒風沢島(さぶさわじま)(186) ○朴島(ほうじま)(35)	塩竈市 (塩竈市営汽船)	塩竈港 ～桂島・野々島・寒風沢島経由 ～朴島 15便/日 塩竈発7 朴島発8	しおじ 【64t 定員 260名】 みしお 【77t 定員 260名】 うらと 【19t 定員 89名】	・船舶被害無し ・岸壁損傷 ・人的被害無し	3月26日より、「うらと」により、塩竈港～桂島(石浜港)間を1日2往復で運航再開。4月13日より、所有船舶3隻で、塩竈港～桂島(桂島港)～野々島(野々島港)～桂島(石浜港)～寒風沢島(寒風沢港)間を塩竈港発4便、寒風沢港発4～6便で運航。	

被災地域に係るフェリー・RORO船・コンテナ船航路の現況(4月21日現在)

別紙-2

船種	運航事業者	航路	現況	備考
フェリー	川崎近海汽船(株)	八戸/苫小牧	3/22～ 青森～苫小牧航路に変更して再開	
	商船三井フェリー(株)	大洗/苫小牧	【3/25～ 東京～苫小牧航路に変更して再開】(注1)	
	太平洋フェリー(株)	名古屋/仙台/苫小牧	3/25～ 苫小牧～仙台航路で限定再開(隔日運航、シャーシ・有人トラック限定) 4/28～ 苫小牧～仙台間で旅客取扱開始	
RORO船	近海郵船物流(株) 川崎近海汽船(株)	常陸那珂/苫小牧	4/5～隔日運航で再開(ほっかいどう丸) 4/11～毎日運航(ほっかいどう丸、ましう)	【3/24～ 川崎～苫小牧航路に変更して再開(げんかい)(まりも)】
	川崎近海汽船(株)	日立/釧路	【3/19～ 東京～釧路航路に変更して再開】	
	川崎近海汽船(株)	常陸那珂/小倉	【4/1～ 川崎～小倉に変更して再	
	日本海運(株)	東京/苫小牧/釧路	3/29仙台臨時入港	要請があれば仙台臨時入港申し出
	栗林商船(株)	苫小牧/釧路/仙台/東京/名古屋/大阪	3/23仙台入港 (再開調整中)	一定の要件の下、要請があれば仙台への無償輸送申し出
コンテナ船	近海郵船物流(株)	京浜/仙台	運航休止	
	井本商運(株)	松山/常陸那珂/清水/京浜	運航休止	
	井本商運(株)	京浜/小名浜/相馬/仙台/八戸	運航休止	
	鈴与海運(株)	横浜/清水/名古屋/川崎・横浜/八戸/仙台/横浜	運航休止	
(参考) 自動車専用船	プリンス海運	川崎/苫小牧/八戸	3/26 八戸入港 (再開調整中)	
	フジトランス・コーポレーション	名古屋/仙台/苫小牧/八戸	3/23・4/10 八戸入港 3/29 仙台入港 4/8～隔日運航で再開(蓉翔丸、清和丸)	一定の要件の下、要請があれば仙台及び八戸への無償輸送申し出

注1. 【 】内は、震災地域以外における再開
注2. 現況に記載されている再開日は、被災地

東日本大震災による被災状況

1. 造船所

- ・ 青森、岩手、宮城、福島の太平洋側造船事業所 37 事業所が全壊若しくは半壊。岩手、宮城、福島の事業所を中心にほぼ壊滅状態の様相。
- ・ 建造・修繕中の船舶の多くが流失等の損害を受けているが、全体の隻数は不明。宮城県石巻市の(株)ヤマニシでは約1万6千総トンの貨物船2隻が流失し座礁。
- ・ 被災造船事業所 37 事業所の従業員数は、協力工を含め合計 2,112 人。全て中小企業に属する。
- ・ 平成 22 年の新造船建造高は約 582 億円、修繕高は約 47 億円（報告 22 事業所分合計）。

	事業所数※	建屋・設備への被害規模		建造・修繕船への被害	人的被害	
		全壊	半壊			
青森県(八戸市)	許可	1		1	3隻損壊	被害なし
	登録	3	3		2隻流出・沈没	被害不明
	届出					
岩手県	許可					
	登録	10	10		被害状況不明	2事業所被害なし
	届出	2	2		被害状況不明	1名死亡
宮城県	許可	6	5	1	2隻流出・座礁 5隻損壊	4名死亡
	登録	11	9	2	被害状況不明	1名負傷 7事業所被害なし
	届出					
福島県	許可	1	1		被害状況不明	被害なし
	登録	2	2		被害状況不明	1事業所被害なし
	届出	1	1		被害状況不明	被害不明
合計	許可	8	6	2		
	登録	26	24	2		
	届出	3	3	0		

※ 許可造船所：500G/T 以上又は長さ 50m 以上の鋼製の船舶の製造又は修繕する造船所。
登録造船所：20G/T 以上又は長さ 15m 以上の小型鋼船又は木製の製造又は修繕を行う造船所。
届出造船所：許可造船所又は登録造船所であるもの以外の造船所。

2. 造船関連事業者

- ・ 船用機器メーカー16工場のうち13工場と連絡がとれている。気仙沼市では2工場で施設全壊、1名安否不明の報告あり。
- ・ その他関連事業者（船用機器メーカー営業所、船用電装事業者、船用機関整備事業者）の、21事業所が全壊もしくは半壊。一部損壊した事業所も含めると、被害のあった事業所は39事業所となる。
- ・ 人的被害は1名死亡（石巻市）、23名安否不明の報告があったが、全体の被害状況は不明。

今時震災に係る人的被害の状況

11. 4. 20時点

単位：人

		旅 客 船			内航貨物船
		許可事業	届出事業	計	
死亡	船員	0	0	0	5
	陸員	0	2	2	3
	計	0	1	1	8
安否不明	船員	1	2	3	47
	陸員	5	0	5	1
	計	6	2	8	48
怪我	船員	0	0	0	3
	陸員	0	0	0	0
	計	0	0	0	3
合計	船員	1	2	3	55
	陸員	5	2	7	4
	計	6	4	10	59

※ 旅客船は、海上運送法に基づく許可事業者、届出事業者からの報告による。

○ 届出事業については、青森～福島で事業を行う者のうち連絡のとれた者からの報告分。
個人事業者、5トン未満の漁船が多数含まれる。

※ 内航貨物船は、内航総連からの情報(4/20現在)をもとに作成。